

# 10th Ris $\Phi$ International Symposium on Metallurgy and Materials Science

茨城大学工学部金属工学科

助教授 友田 陽

(平成元年度国際会議等参加助成 AF-89033)

## 1. MATERIALS ARCHETECTURE

(1989. 9. 4~9. 7. ロスキレー・デンマーク国)

本会議は参加者数91人、参加国は欧州を中心に20国（日本よりの参加者は6人）であった。67の論文が4日間にわたって早朝から夕方遅くまで発表された。会場はロスキレー市郊外の田園の中にあるRIS $\Phi$ 国立研究所内であり、参加者はほとんど缶詰め状態となり、連日、熱心な討論がなされたのが特徴であった。

今回の会議は、過去9回にわたって、あるトピックをとりあげて討論された一連の会議の総まとめをねらったものである。この会議のProceedingsは、これまで評価が非常に高くよく引用されているが、今回も各分野の世界的な第一人者による12の招待論文をはじめ力作が多く、レベルの高い会議であったと思う。あまり大規模でないことが、研究者間の交流に実に便利で、著者には得るところが非常に多く、今後の研究の芽も生まれた。

著者らは以下の発表を行った。

- (1) Anisotropy in Deformation Behaviour in an FCC/BCC laminated Fe-Cr-Ni Alloy.
- (2) Effect of Morphology of Martensite Colony and Ferrite Grain Size

on the Strength of a Dual Phase steel.

数人の研究者との討論を通して、鉄鋼材料の加工プロセス、金属組織、および性質の各関係を定量的に表現し材質予測システムを構築するという日本を中心とした産業界の動きに対して、これを基礎理論に立脚し展望性のあるものにするには、このような地道でいねもいな討論を中心とする会議が、実に貴重であると痛感した。

全体の発表論文の内容や分析については、一緒に参加された大塚教授（芝浦工業大学）による報告を参照していただきたい。

次回は再びトピック方式に戻り、

STRUCTURAL CERAMIC-PROCESSING, MICROSTRUCTURE AND PROPERTIES  
と題して1990年9月3日～7日に同研究所で行われると発表された。

## 2. MATERIALS IN MODERN SOCIETY

(1989. 9. 8, コペンハーゲン・デンマーク国)

欧州全体を対象として、材料科学の研究、教育、産業界との関連などが、場所をコペンハーゲン市内に移して行われた。先の会議の参加者に加えて、さらに82人の主として企業の研究者、技術者を加えた討論会が行われた（参加登録者173人）。上記のような国際会議の成果を欧州の産業界へ反映させようという、欧州の材料科学研究者の意気込みが感じられた。講演では、A. Kelly (USA) の複合材料（特に欧州諸国への激励を込めた発言）と B. Thomson 博士（仏 IRSID）の鉄鋼の発展と見直しに関するものが印象深かった。

本会議への参加旅費は天田金属加工機械技術振興財団より援助を受けたことを記し同財団にお礼申し上げる。